

I 本校経営の基盤

1 学校の沿革

(1) 開校までの経過

1967年（昭和42年）当時、コスタリカには日本語を教える学校はなく、日本人子弟はすべて現地校に通っていた。しかし、日をおって日本語が貧弱になり、親たちから憂慮されていた。そのため日本人会が中心になり、本国政府の援助も得て日本語普及講座が開設された。保護者などから依頼されて小林俊一氏が講師に就任し、それ以後、本講座は約7年間に渡って実施された。この間、場所が各家庭を持ち回りになったり、児童によってはバスを2回も乗り継いで通うことになったりして、児童・講師ともに困難が多かった。その後、講師に中島次郎氏大使館の高橋脩氏を迎える時期があるなど、学校は多くの方々の熱意により順調に続けられた。

1973年（昭和48年）、日本人会の学校開設への要望が強まり、日本人会総会において、全日制日本人学校開設要望書を決議した。同時に講師1名の派遣要望もあわせ、人見鉄三郎大使に提出、本国政府への取り次ぎを依頼した。人見大使、石田領事、前原書記官も大変な熱意で、貴重な助言や各地の日本人学校の資料を提供してくださった。その年の12月には、海外子女教育の重要性が国内でも認識されつつあった機運と相まって、更には本校の補習校時代の実績も評価され、パナマ校と同時に認可された。また、近い将来に自分たちの校地、校舎を持つことに日本人会の意見がまとまり、早速、候補地の検討が始められた。

1974年（昭和49年）、学校開設許可にともない、当面する課題として校舎の決定、教材用具の整備に取りかかると同時に、並行して校地の取得、校舎の建設の計画も相談された。さしあたり校地の取得が急務となり、以降学校設立準備委員会（前年9月に発足）は二つの問題を抱え、多忙となった。

同年6月には校地候補地として、サバナ、スール、セメンテリオ付近など、いくつかの中から諸条件にかなうモラビアが選ばれ、契約の運びとなる。契約金は企業からの借金によった。一方、サバナノルテの大きな二階建て民家を借り、仮校舎にすることにし、朝田委員が中心となり改装を始めた。また、1月提出の免税措置申請の内容が大蔵省基準に合致しないため許可が下りず、企業よりの寄付を募ることも多く資金面の苦労が多かった。そのため仮校舎に必要な教材購入に際しても、ステープラー1個を予算に計上するなど大変であった。また、日本人会婦人部による開校援助バザーは多大な収益を上げると同時に、在留邦人の心を開校へと固める大きな要因となった。

9月29日、「みなさん、今まで自分の学校をつくったことがありますか・・・。」この人見大使の言葉は式場を感激に包んで、開校式が行われた。

10月1日、授業開始、サン・ホセ（後にサンホセと改称）日本人学校の歩みが始まった。

II 学校経営計画

1 学校教育目標

知・徳・体の調和のとれた教育を目指すとともに、国際性豊かな人材の育成を図る

(1) 学校教育目標の理念

本校は設立の目的にうたわれているように、日本人の児童生徒に対し「日本国憲法に従い、教育基本法及び学校教育法に準拠して文部科学省の定める初等及び中等教育を、児童生徒に日本語で施す」ことを目的にしている。したがって、本校の教育目標及び教育内容は日本国内の小中学校と同等のものであり、日本国内と同等の卒業資格を得ることができる。

また、コスタリカにある日本人学校という特色を生かして、国際性豊かな人材の育成を目指していることも特長の1つである。

以上のことから、本校の教育理念は、「日本語による教育を授け、一人一人の資質・能力を伸ばし、広く国際社会に貢献できる人間の育成を目指す」ことである。

本校の学校教育目標は、そのような建学の精神と保護者の願いや本校の実態が結実したものであるということが出来る。

(2) 期待する児童生徒像

学校教育目標における「知」「徳」「体」の内容を児童生徒像になぞらえて示したのが、次に示した児童生徒像である。学校教育目標を子どもたちにわかりやすい児童生徒像という形で端的に示し、常に教室に掲げている。

知……………自分で考え、よく学ぶ子

- 1 学習に意欲的に取り組むことができる
- 2 筋道を立てて考え、判断できる。
- 3 創意工夫ができる。
- 4 めあてを立てて挑戦することができる。
- 5 コスタリカと日本のよさを学び、紹介できる。

徳……………明るく、思いやりのある子

- 1 相手の立場を考えて、行動できる。
- 2 相手と協力し合うことができる。
- 3 自分のわがまを抑えて行動できる。
- 4 「はい」という返事と明るいあいさつができる。

体……………強く、たくましい子

- 1 何事にもねばり強くやり抜くことができる。
- 2 生命・健康・安全を大切にできる。
- 3 進んで運動に取り組むことができる。
- 4 決まりを守り、集団行動ができる。

(3) めざす教師像

- 教育に夢と情熱を持ち、自己研鑽に努め、創造性豊かな教師
- 「子ども第一」に考え、子どもとともに歩む教師
- 課題に対して問題解決的に取り組み、できる限りのことをしようする意欲のある教師
- 心身ともに健康であり、いかなる環境においても平常心を備え、誰からも信頼される教師
- 報告、連絡、相談を密に行い、児童生徒・職員・保護者・日本人会・その他関係機関とのコミュニケーションを大切にする教師

3 運営主体

(1) 学校運営の概要

ア 学校の名称

本校は在コスタリカ日本国大使館附属サンホセ日本人学校 (LA ESCUELA JAPONESA DE SAN JOSE) という。

イ 学校の設置者

本校は、日本国政府の海外子女政策に基づき、コスタリカに在住する邦人の総意によって設置された教育施設であり、敷地・校舎等は日本人会の所有である。

ウ 設立の目的

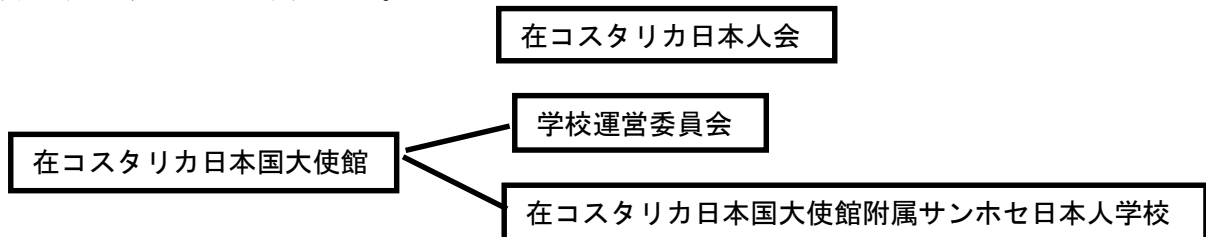
本校は、サンホセ及びその周辺に在住する日本人の子女に対し、日本国憲法に従い、教育基本法及び学校教育法に準拠して文部科学省の定める初等及び中等教育を、日本語で児童生徒に施すことを目的とする。

エ 運営主体

本校は、学校運営委員会によって運営される。

オ 運営組織

学校運営委員会は、委員7名で構成される。運営委員長は日本人会が選出する。他の委員は、日本人会の承認により選出される。



カ 経費

本校の経費は、日本政府の補助金、海外子女教育補助金、入学金、授業料等をもって充てる。

キ 入学

本校に入学を希望する児童生徒は、原則として年齢相当学年に入学させる。

(2) 学校運営委員会

平成27年4月25日現在

役職	氏名	勤務先等	役職	氏名	勤務先等
運営委員長	薬師寺富代	自営	委員(PTA)	木下フランク	保護者
副委員長	大塚康子	JICA	委員(大使館)	西田絵里子	大使館領事
委員(会計)	木下秀樹	JICA	委員(学校)	矢野和彦	日本人学校
委員(バス)	加瀬和城	自営			

(3) 教職員一覧

平成27年4月9日現在

職名	氏名	担任	担当教科主任	出身	主な分掌	就任期日
校長	矢野和彦		理	埼玉	総務	平成27年4月～
教諭	高橋靖彦	中123	国・算・数・保体	静岡	教務主任	平成25年4月～
教諭	本山和寿	小5,6	国・算・数・社・図・美	熊本	進路・生徒指導	平成25年4月～
教諭	山田夏子	小3,4	国・算・社・英・音・書	三重	交流・研修	平成26年4月～
教諭	戸松浩一	小1,2	国・算・社・生活・保体	愛知	宿泊学習、保健	平成27年4月～
講師	藤沢直治		西語、選択語学	兵庫	選択語学、西語	平成 6年10月～

(4) 児童生徒数及び学級担任

平成27年5月1日現在

	学年	児童生徒名	男	女	計	家庭数	担任
小学部	1		4	4	8	5	戸松 浩一
	2						
	3		1	1	2	1	山田 夏子
	4						
	5		3	2	5	5	本山 和寿
	6						
中学部	1		3	0	3	3	高橋 靖彦
	2						
	3						
合 計			12	7	19	14	

2 経営方針

前述の学校教育目標を達成するために、以下に示す基本方針に沿った教育活動を実践し、目の前の子どもたちの可能性を拓く教育を進める。

(1) 基本方針

- 1 基礎学力の確実な定着
- 2 国際理解教育の推進
- 3 心の教育の充実
- 4 健全な心身の育成
- 5 総合的な学習の時間の充実
- 6 生徒指導の充実
- 7 学校環境の整備
- 8 教職員の資質向上

(2) 本年度の重点

本年度は、子どもたちの実態から以下の3点を重点にして取り組む。

○自分を豊かに表現できる子の育成

- ・各教科における言語活動の充実に焦点を当てて授業改善を図る。
- ・個の思いを大切に各教科・総合的な学習の時間等、様々な表現の場を設ける。
- ・すべての基盤となる学級経営の充実を図る。
- ・子どもたちが表現する場を多く設定することで、子どもたちの表現する意欲を高める。
- ・適切な評価を実施して自己肯定感をもたせる。

○基礎的体力の向上・健康増進

- ・ 体育科授業やアニモタイムの工夫・改善を図り、運動量を確保するとともに、楽しく運動する中で運動技能及び体力の向上を図る。
- ・ 健康診断の適切な事前調査及び事後措置を実施し、健康の維持増進を図る。

○求められる教育課程の創造と実践・評価・改善

- ・ 新しい学習指導要領の理念に沿って「生きる力」の育成を図る。本校の特色を生かして有効な授業法・指導計画の確立に努める。
- ・ 目の前の子どもたちの実態を把握し、本校の環境を最大限に生かしながら個々に必要とされる能力を効果的に培っていく実践を進める。
- ・ 複式授業・少人数指導を前提とした授業改善に努める。

(4) 学校教育目標の構造図

